

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 花トピア活用推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111(内4114)

E-mail : c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 1,546 千円 (前年度予算額： 1,546 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,546	0	0	0	0	0	0	0	1,546
要求額	1,546	0	0	0	0	0	0	0	1,546
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・国の農業生産体質強化総合推進対策事業により平成元年に整備した花トピアは、「花の都ぎふ」運動の拠点施設として設置。花の講習会、展示会などを通して花き生産振興、消費拡大を図るとともに、花の情報発信と県民への憩いの場を提供してきた。
- ・当施設は、年間約40万人の来場者があるぎふワールド・ローズガーデン内に立地している利点を活かし、県産花きの紹介展示、体験教室の開催など、花き文化の発信に取り組んでいる。
- ・当施設は処分制限期間が経過しておらず、東海農政局から引き続き適正な使用を求められている。
- ・令和5年度の県立国際園芸アカデミーのサテライト施設を改修整備したことに伴い、令和6年度から維持管理費用を上乗せ。

(2) 事業内容

- ・県産花きの展示、園芸教室の開催など、施設の適正利用を継続すると共に、花き文化団体の活動PRの場として活用し、花き文化の普及を推進する。
- ・体験教室及び花飾り展示・園芸相談の開催 19回
- ・国際園芸アカデミーのサテライト施設の維持管理費用

(3) 県負担・補助率の考え方

当施設は、平成元年に国の農業生産体質強化総合推進対策事業を活用し、県が整備しており、引き続き県が運用する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	1,546	体験教室・園芸教室の開催、展示会の開催等、維持管理費用
合計	1,546	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ花と緑の振興計画（仮称・令和8年3月策定予定）2 「花と緑の文化振興」

(2) 国・他県の状況

類似事例なし

(3) 後年度の財政負担

事業効果を検証し継続を検討する。

(4) 事業主体及びその妥当性

平成23年4月より、ぎふワールド・ローズガーデンの指定管理者は、公募により決定。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・花トピアを有効に活用することで、県民の花への関心を高め、花き文化の理解促進を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①1世帯当たり花き関連品消費額(R8~)	—	15,513円	—	17,000円	23,000円	—
②花の展覧会、体験教室等の来場者数(～R7)	—	86,724人	40,000人			217% (R7)

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・花き関連のコンテスト、体験教室及び展示を4月15日～12月11日に16回実施。 ・コンテストや体験教室、展示会の開催は、愛好家の技術向上を図るとともに、一般来場者へ花きの楽しみ方提案や花飾り方法を教えることで、花きへの興味関心を高め、花き文化の理解促進を図った。
	指標目標：— 実績：— 達成率：—%
令和5年度	<p>花き関連のコンテスト、体験教室及び展示を4月26日～12月6日に16回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテストや体験教室、展示会の開催は、愛好家の技術向上を図るとともに、一般来場者へ花きの楽しみ方提案や花飾り方法を教えることで、花きへの興味関心を高め、花き文化の理解促進を図った。
	指標②目標：30,000人 実績：59,649人 達成率：198%
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・花き関連のコンテスト、体験教室及び展示を4月7日～12月8日に17回実施。 ・コンテストや体験教室、展示会の開催は、愛好家の技術向上を図るとともに、一般来場者へ花きの楽しみ方提案や花飾り方法を教えることで、花きへの興味関心を高め、花き文化の理解促進を図った。
	指標②目標：30,000人 実績：86,724人 達成率：289%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	・花き文化団体から活動PRの場としてのニーズは高く、花き業界からは花の楽しみ方を提案し、消費拡大につなげるために事業継続の要望がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 1	・体験教室等を開催することで、消費者に花と触れ合う機会を提供でき、花きへの関心を高めることができているが、ぎふワールド・ローズガーデンのメインゲートの反対側に位置しており、花トピアへの来館者が少数であるため、広報等の工夫により来館者を増やす必要がある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	・実施内容を精査し、必要最小限の運営に努めている。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

・今後開催される2027国際園芸博覧会に向けて、花き文化団体の活動の維持、発展を図る必要がある。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
- ・花き文化を伝承、継承していくためには、多くの県民に花き文化に触れて体験していただくことが重要であるとともに、それを支える団体の活動支援も必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	